伊地知文庫
文庫20
321
1

文庫20
321
1

一乗院

新古今和歌集抄

伊地知氏書冊

春哥上

九条良經公法性寺入道前関白太政大臣日野子花山院位藤秀行女

三昔野に山もかすみて白雪はゝ里ふるきはゝ良經

ちらぬつゝもちるかぞふるうくまたみるはゝ山雪ゝ

みしはゝ山の白雪はゝ里ふるはゝ

はるたちぬ石上ゝゝ

春はたゝしめはゝ

御母七条院藤原殖子入道修理大夫信隆女

ひのくゝとたゝ天の香久山霞たつ後鳥羽

第八十二代四世後鳥羽院諱高成高倉第四子

百首の中に

山ゝ春ゝ心ゝ四松の戸ゝ

前斎院産三宮後白河御子第二皇女御母高倉三位成子

ゝ千首ゝ雪の白水式子

○かきくらし雪降りつもる冬の夕暮れ

[illegible]

右京大夫師光女後鳥羽院官女

入道前関白太政大臣右大将家百首奇よ[illegible]

けふ立春[illegible]

[illegible]

題[illegible]

[illegible]

[illegible]

述懷百首の内

[illegible]

日吉の社よみてたてまつりける

俊成

[illegible]

天智六年[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

詩をはくらきて [illegible]

[illegible]

摂津名所

三月ばかりの [illegible]

藤原秀能左衛門尉五位下河内守秀宗二男

夕月夜 [illegible] 通光

左衛門督建久三年四月三日叙三位内大臣右大将 通親三男

青の [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

題しらず

山ざくらたちかへりみる春の山はなのかすみのうへの白雲　天智天皇追号　志貴皇子

百首歌奉しとき

天ぞ富士の煙の空をはらふらん高嶺の雪の夕ぐれ　慈圓　法性寺入道関白子三百首院門跡也吉水和尚諡曰鎮

寄月徳

あまつかぜ雲のかよひぢ吹とじよをめぐりの月の影をとどめん　清輔　左京大夫顕輔男藤原氏

晩春

なごりなき海松房のまろかれ入りをあらふ春の夕ぐれ　寛之　後徳大寺左大臣大炊御門右大臣公能男

おのづからこしも沈まぬ春の日のかすみ　後鳥羽

よ水郷春ちかしとぞ

みつしほの山なかすもの水無瀬川夕べ春風ぞ吹　後鳥羽

川なかすもの花ぞ春ぞ

右抄云是は水郷春望の歌なり水無瀬の

ちかしとは春の日のかすみのなをくまけ

ぬるとぞ

あるはこゝろ自つから面白きを一ふしあつ

まれ一つふたつあるはきはめてふるさとの面白

うるはしくとかくもかくもかすみてあ

るかたをのかれをまきまきのもつれあさのをの

たるは四方のなりはひ風情なるべし　川なを

拾遺抄云ちかの家百首歌合に本醍醐ふるをの

雪陰の松山のかすみ　仁和寺眼　家隆

ふまうらん法親王五十首歌をすゝめ

春の花ぞ雪のうきはしうきはしてかすみの

ちさあるかたをよりてとりてとりてと

中務卿敦慶親王女母伊勢也

さきさきもさくらの花の色にうつりにけりないたづらにわが身世にふるながめせしまに

中務

白樂天嘉陵の春夜の詩不暗朧々月と

大納言経信

春来ぬと人はいへども鶯の声だにもせぬ山の里かな

宗忠

思ひきや雪もとけぬる春の日に梅の花ぞ咲くべしとは

葉平

梅の花ぞ春の色にもあらねども匂ひ深くぞ人は見るべき

宇治前関白大政大臣法性寺入道二男れと

梅の花ぞ春の色にもあらねども匂ひ深くぞ人は見るべき

頼通

古歌云 梅の花を雪の中にたづねてもかをるばかりぞ春はしるべき

藤原氏本蔵人頭参議兼経

かきねの梅を見て

あるじをば誰とも知らぬ垣ねの梅を見てぞ敦家

源俊頼朝臣大納言経信三男母土左守真亮女

梅の花遠薫といへるこころをよみ侍りける

大納言経信三男従四位上木工頭

俊頼

梅の花ぞ春の色にもあらねども匂ひ深くぞ人は見るべき

類可

住吉の松のかげにうゑたりし梅の花ぞ春のあけぼの

住吉のきしの姫松ひとりしぬ

百首歌よみ侍りし時

梅の花匂ひをうつす神のよる月の影ぞ梅の家隆

梅の花匂ひをうつす神のよる月の影ぞ梅の家隆

千五百番歌合

一人ぬる夜の月の影ぞ梅の家隆

参議正三位内大臣親二男

梅の花匂ひをうつす神のよる月の影ぞ梅の通具

[illegible]

梅花あるぬしの家の月　俊成女

梅花をうへてたのむ三位殿　大納言公任一男

こぬ人をよそへてみつる梅花　定頼

左衛門督佐山城守藤宣孝女　母紫式部　大宰大貳成章卿為妻仍号大貳　撰者撰歌　継子源氏有相傳

春毎に心のそらに花の香の　[illegible]

[illegible]

二月雪落衣とゝのをよろん侍ける　異大宮女房　康資王母

[illegible]

梅さくころ　[illegible]

[illegible]

[illegible]

数ぬ以ハ匂ひとそ知梅の花あるとや神ゝ風も吹有家

正四位下大蔵卿大宰大貳重家子

おもへハ梅の花ハ神ゝ

神ゝ

白へ梅の花あるとや神ゝ風も吹有家

八條院女房 高倉

参議従二位兵部卿大輔参議 千里

信濃守橘俊通妻 皆有孝標女

従五位上左兵衛佐源具親

俗名定長中務少輔従五位上 俊成卿猶子俊忠孫也

刑部卿頼輔卿会に侍けるよみて法ふ[illegible]

中人て深い所をゆくなのさとりなるあけの方俊成

堀抄云此卿の心ちなりとよろこびて[illegible]

[illegible]

[illegible]

雨ふりて山田のまもりおとまあらしも苗代水をこすなり　藤親賢子　勝命法師

[illegible]

春雨の降るなかに柳のいとたれてうぐいすなきて　躬恒

[illegible]

[illegible]　正三位参議盛敦男　大宰大貳　高遠

[illegible]　後三条皇子　輔仁親王

[illegible]

[illegible]

[illegible]

百首の歌を詠ける時春の部

春風の夏雲雪をくるもんまの紅葉

千五百番歌合に去の字

白雪のふるの山まつ夏なれ山ほとゝぎす　雅経

寄郭公恋

郭公なくこゑ聞くとこの夕べ　有家

川

流るゝ水に月の影ぞ　宮内卿

恋

恋ひ死なんこの夕べ　松殿

吐血

吐血の夕べ　みなもと

殿富門院大輔宮

従五位下左近衛将監兼右馬頭経房卿

父母不詳寛和元年生也号曽根丹後掾曽丹

○やまとなでしこ

かぜの吹くにつれて　忠見

吉野山桜の枝に雪ちりて

白河院の御時

待ちかねてよしの山家

梅花

梅花咲く山家

山里

山里の春の夜の月

山家の人の

家へ

この人の

山家

西行

歌

氣

国綱時家隆曽祖父清綱男藤原

世家の

山里

隆時

貫之

家隆

十一

梅

梅のうつろふを見てよめる　花の所

[illegible]

今梅咲きぬとみてそしらすれ　春のうつろふ所　式子

題しらす

伏てをりのはねをそなる花の中に　讀人不知

ゆうゝこそ人思へまされ立田の山の紅葉花　家持

もの所にてよめる

昔時をしのぶ心は[illegible]　西行

[illegible]

和哥所にて所法[illegible]

蔓草やうるの梅咲[illegible]立田の奥[illegible]　寂蓮

[illegible]

のたまはせ[illegible]

題しらす

石上時雨[illegible]昔[illegible]花咲　讀人不知

春[illegible]山田[illegible]　公忠

公忠従四位下右大弁号滋野井弁大蔵卿國紀之男

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

白雲[illegible]峯[illegible]

題[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

梅咲きて山ぢかくなりぬ　後鳥羽

[illegible]

千五百番歌合

[illegible]　俊成

[illegible]

[illegible]

[illegible]

百首の内

梅花

赤人

在原一朝臣 業平 左近中将

花よあるぬ雪さへ川もさそはれて

山桜ちりて水ぬるる

伊勢

我宿に

春雨に

影さす

梅花

赤人

貫之

宮見年に附后宮に合す

うすくこき

梅花

讀人不知

ものうらの

千五百番に合す

風なふく

梅の花

俊成女

[illegible]

[illegible]

[illegible]

父祖不詳 寛和比人
号播磨講師

恵慶

源重之

具親

源康資
王母

源

大納言
師頼

正三位修理大夫頭季卿二男母経平卿女
左京大夫
頭輔

従三位刑部大輔能兼男
刑部卿
範兼

正三位中納言道方男
母源国盛女
大納言
経信

正二位左大臣
後房一男母美
濃守實基女

[illegible]

[illegible]

金剛經の應無所住而生其心のこころを　奇特なり

[illegible]

山里の庭のおもかげ　越前

[illegible]

[illegible]

[illegible]

梅を花瓶にさして風流なる人の宅にて定家

ゆきけつこそあらぬ雪とみるまでに

古梅を五月雨の頃白く咲きたるを

梅雨の白雪ゆきかとぞ思ふ

ゆきとのみ見えしたるを

人の宅にて

梅の花の白雪の

梅の花の白雪の

今ぞ

梅の花の白雪の

家の八重梅を

惟明親王

式部卿親王

家の八重梅を

惟明親王

式部卿親王

五十首

梅花

藤原家隆朝臣

春風

古梅を

藤原定家朝臣

歌たてまつる

皇太后宮大夫俊成女

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

山家にて　　[illegible]

[illegible]

[illegible]

夏[illegible]

[illegible]

持統天皇御[illegible]

[illegible]

[illegible]

散て[illegible]

[illegible]

[illegible]

春秋送て世のことゝ云るを　源道濟

反魂きていくらのあめのうへ　のとけるもいとゝ敬つ

夏のとし　あれそしよう行けり　宮内卿　後鳥羽院

打ぬもるゝ世の中の人をゝのを隣の袖

時　ちるうゝとへくゝしてみるてゝ

小時雨　色みへてうゝのうゝ

如　ふるゝのよの中は人のゝ色もゝるゝ

とらゝとくゝ　ゝをよゝを行けり

卯月　白河院　佛事

卯花のむらゝ咲るかきねをゝ雪まの月はうゝ

歌　ゝゝ　太宰大弐三家

卯月　ゝれきゝ　ゝ

ゝ　わう酒のゝ　白雪の消てゝ　ゝ

舟流　ゝ　ゝ　ゝ

藤原経盛

野辺の月

待賢門院安藝

曾禰好忠

[illegible]

鳴海を過ぬ　人丸

[illegible]

京

[illegible]

森の雫に濡にけり　素行

[illegible]

附島

[illegible]

弁の花母

[illegible]

月山

[illegible]

諸島

[illegible]

中納言家指

大中臣能宣朝臣

時鳥

大納言經信

題 大長

前中納言定房

[illegible]

[illegible]

[illegible]

寛治八年前太政大臣高陽院が今の部を
周防国に
[illegible]

海道時[illegible]

附

[illegible]

一部[illegible]

千五百番[illegible]

八條院[illegible]倉

[illegible]

後法大寺太政大臣

時鳥のこゑを元持の前太政大臣

権中納言義家

有明の月ふかきあるあるある

百首[illegible]式子内親王

[illegible]

[illegible]

[illegible]

千五百番[illegible]人合[illegible]　藤中納言[illegible]経

時鳥[illegible]

[illegible]

[illegible]

題　[illegible]

[illegible]

[illegible]

山家暁　附月

小倉院にて人々月の歌をよみ侍りしに　後徳大寺左大臣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

説文畦田五十畝
曰畦从田
圭声又區
也○又以
追切田有
埒

早苗る山田のうみ縄

埒　山畦とハ山田とハ
うけてハ山田へハこ
をハうるこ山田へ
山のめくりてこ

山畦早苗とハ
埒

小山田の縄の井入て

埒

伊勢大輔

[illegible]

[illegible]

[illegible]

百首歌よみ侍りける道前宮百首歌の内

月前霧

[illegible]

月前鹿

[illegible]

[illegible]

[illegible]

右兵衛督藤原[illegible]

[illegible]

[illegible]

よみ人しらず

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]　惠慶法師

[illegible]

[illegible]　前大僧正慈圓

[illegible]

[illegible]　寂蓮法師

[illegible]

[illegible]　千五百番歌合に皇太后宮大夫俊成

[illegible]

藤原定家朝臣

[illegible]

[illegible]　右近衛中將雅經

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

家百首 今 拾遺 太政大臣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

百首哥中より　式子内親王

千五百番哥合に前大納言忠良

二條院讃岐

[illegible]

[illegible]

[illegible]

文治六年　世間八月内屏風ニ合ス　前宮内卿入道

[illegible]

千み百番ニ合ス　　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

題　不知

西行法師

[illegible]

清水寺法花堂

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

七夕の月とわらるゝの
うちはたをよいく杖
宮太后宮大夫俊成

七夕の月とわらるゝの
うちはたをよいく杖
宮太后宮大夫俊成

雨の音おのの中よ
式子内親王

雨の音おのの中よ
式子内親王

家の百首よみ侍りける
前宮内卿

家の百首よみ侍りける
前宮内卿

七夕は
雨を
星合の空
作者天の河
二のうちの人
たゝる
たゝる
雨の音
待宵
天の川
天の川
天の川

大中臣能宣朝臣

中納言兼輔卿屏風

紅葉

従三位敦仲卿

[illegible]

題不知　祐子内親王家紀伊

紀伊なる三條殿
敦信朝臣の母小弁

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

蘭をよろこぶ　以猷法師

中務大輔定長男

[illegible]

[illegible]

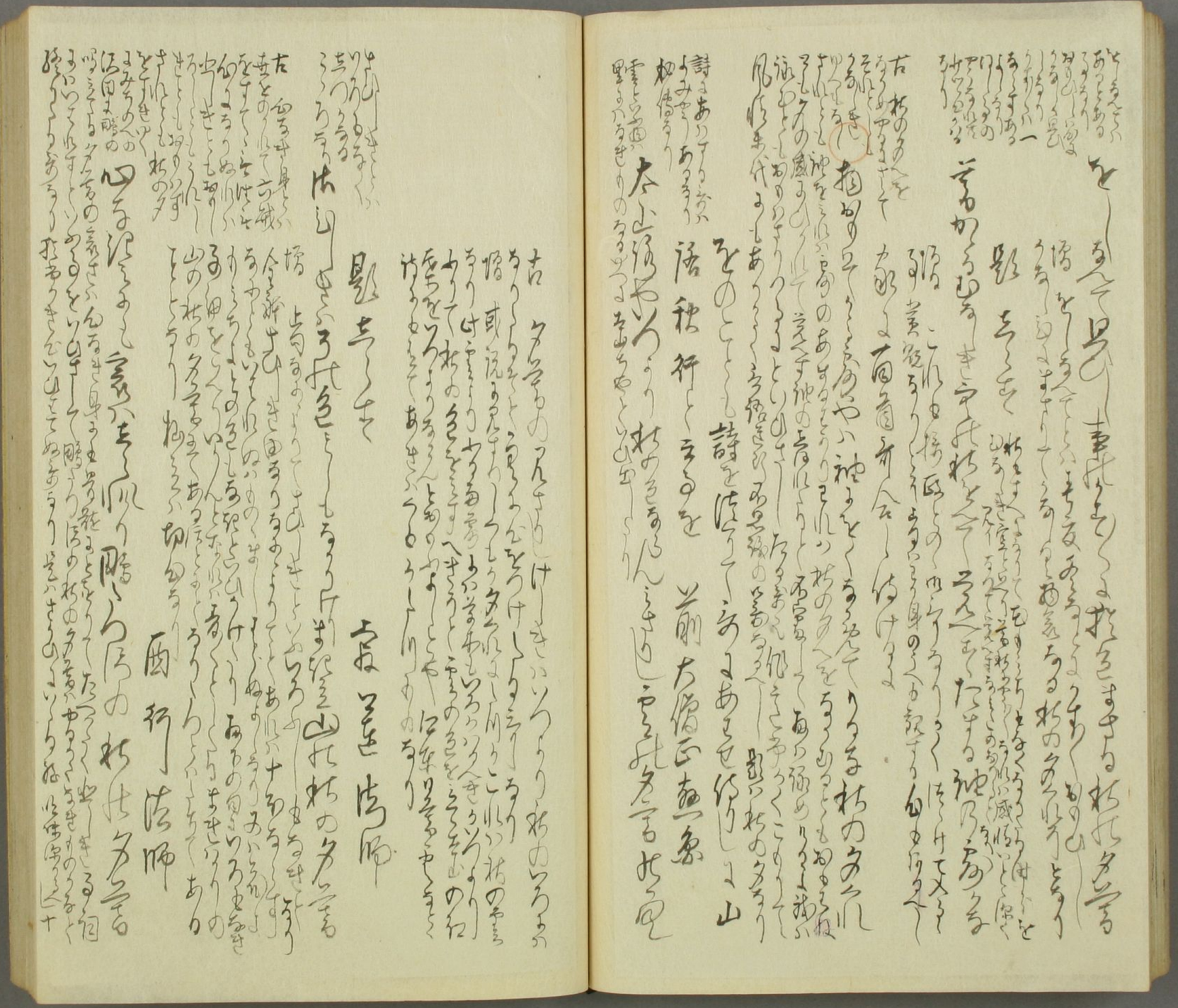
[illegible]

山賤のうせにけるを

[illegible]

[illegible]

[illegible]



[illegible]

[illegible]

[illegible]

鴨長明　後五位下鴨長継男　雪継孫

西行法師

一首のうた
てくのこる
ものの
ときぬ
あいせて

曉の高き陰をうつしてのこる

さかの
きこえ

法隆寺前関白太政大臣北
高圓野
高きまとの野ちかき
すすきかな
つゆ
千

源基俊

有明の月待石社神の上さ人多のめるらひ社のつま

水無瀬 摂津国 淀の西の方なる所

水上無瀬

五月雨の頃ゆけ共も杉のこすえ通る

風の音

石首

月の宮

前大僧正慈円

月みし

月

玉

月

圓融院御所

月

三條院御所

足

雲居

堀川左大臣

法性寺

風

後三條院

[illegible]

古

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

月　前　松　風　　宝暦法師

[illegible]

月　前　桜　　[illegible]

[illegible]

千字一字　　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

月をそへて行うしけるを夜東花坊殿

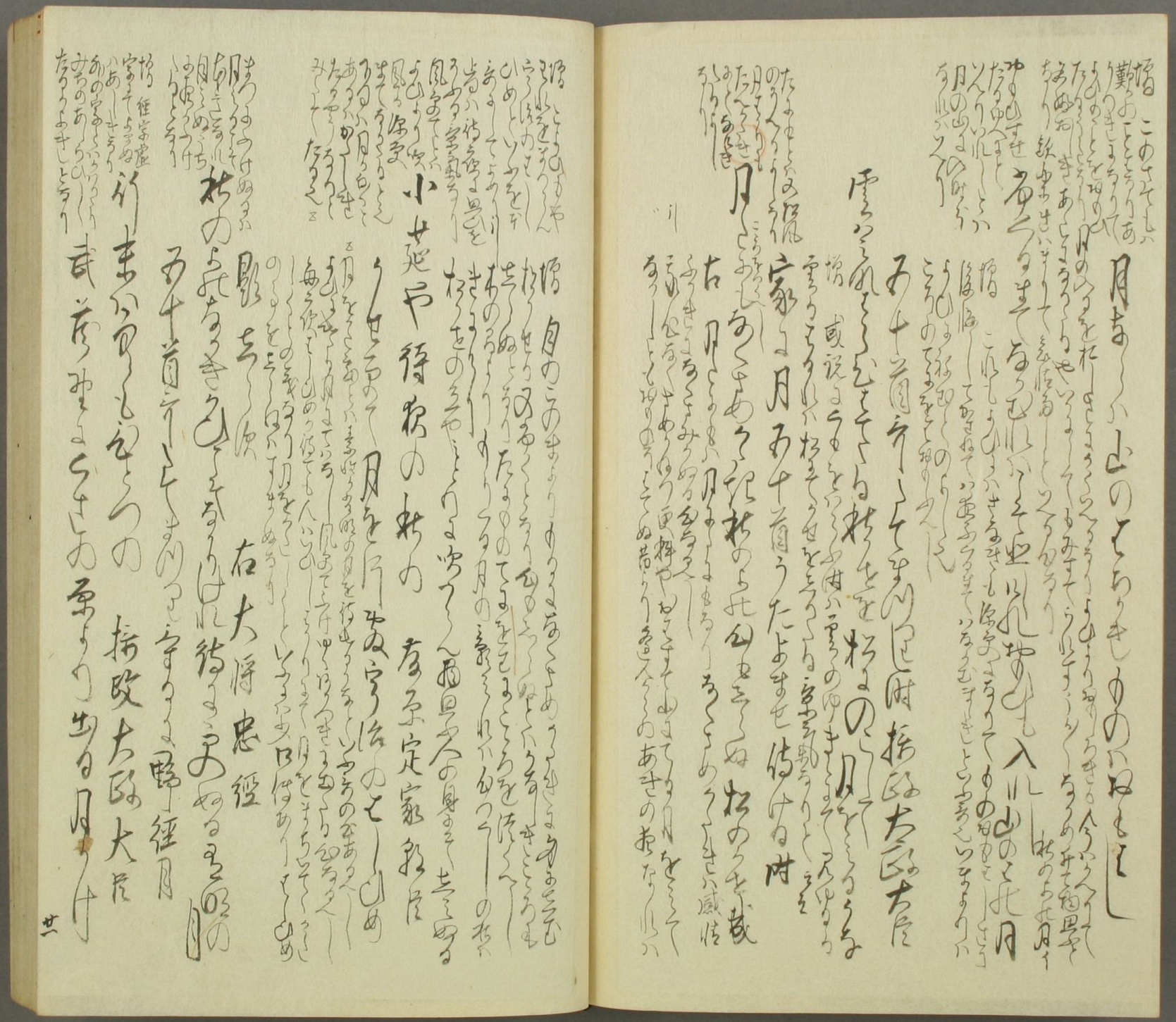
尾張宇
仲清男

みる人恵神をそ立る

[illegible]

[illegible]

[illegible]



[illegible]

宮内卿

雨後月

月を[illegible]村雨の時雨[illegible]事の里人

[illegible]

題 [illegible]

村の月 [illegible]

源家長

[illegible]

元久元年八月十五夜和歌会 田家月

[illegible]

[illegible]

和歌 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

崇德院御時百首歌 左京大夫顕輔

秋の田の穂さきの露を月とみる
あかぬ光の宿りなりけり

式子内親王

秋の月
雲はなれてはるかに澄めり
秋の月
雲はなれてはるかに澄めり

太上天皇

秋の夜は
月のかげこそ
あはれなりけれ

左兵衛督通光

秋の月
雲はなれてはるかに澄めり

五百番歌合

月ふかき
秋の夜
月のかげこそ
あはれなりけれ

二条院讃岐

月のかげを
合はせ
月のかげを
合はせ

秋哥下

初秋のたのしみとなる夕の鹿といふことを

石紅葉ちらぬ山は夕霧の鹿の鳴ぬる

古今

夕霧の鹿の鳴ぬる山は紅葉ちらぬ

石首哥たてまつる月よみ

月よみ

[illegible]

太山の杉林を過る也

[illegible]

[illegible]

[illegible]

都芳門院の前載合せられる

都芳門院の前載合せられる

題　三田山雅

僧　惠法師

[illegible]

前中納言匡房

[illegible]

山田のひたをかるこゝろをまつときてうさく

[illegible]

川わたりのたくのしらなみ

[illegible]

附島唱さみ[illegible]七田を

[illegible]

[illegible]

[illegible]

中納言家持

我宿の花橘に雨の降るいとのもとにかくれをるかな

白雪のふりしく時にあらねども

あしたの原の花の咲きけ

あさぢふ

[illegible]

天暦御時

わかの浦にしほみてくれば

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

坂の[illegible]　大上天皇　[illegible]

[illegible]

西行法師

[illegible]

[illegible]

[illegible]

百首中に　式子内親王

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

中納言兼補家屋風雨つくもの花

[illegible]

藤原雅經

みよし野の山の桜もさかりにて
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

なくらのねを　法眼春信

のこりなきく少念心三月三日　はるのはれハ

八月十五日　山路　月雪花　石井川　詠花例

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

白雲を翻して行くかと見えし月の面影

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

題しらず　皇太后宮大夫俊成女

あしたゆく雁の山風

千五百番歌合

[illegible]

大上天皇

[illegible]

春宮権大夫公継

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

梅

[illegible]

寄蓮法師

[illegible]

梅の雪

[illegible]

梅の香

[illegible]

高倉院御前

[illegible]

八條院

[illegible]

太上天皇

最勝四天王院の障子

[illegible]

紀伊

[illegible]

山田の原

[illegible]

白川院

[illegible]

藤原為家朝臣

[illegible]

前中納言

[illegible]

藤原為氏

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

曾我祐昭

題不知

人はあれど風ふきあれて月のみ冴ゆる秋の夜の山

春宮権大夫公継

千五百番歌合に

月の光冴ゆる山の秋の風ふきあれて月のみ冴ゆる

西行法師

題不知

松ふるまゝに紅葉ぬる秋の山の風ふきあれて月のみ冴ゆる

あすか川きてゝ渡るる舟ゝ　萬葉山のあらしの風

詞　人ゝ　川の　山ゝ

長月のこゝろみなる日は結ける　山のゝ　たゝ　ける人ゝ

和歌をさこそ　風のこゝ

詞　山ゝ　風ゝ

東の方　結ける　山ゝ

三国殿今いの時　結ける　人の神ゝ

詞　人ゝ　結ける

千五百番歌合　橋中納言兼宗

詞　結ける　結ける　結ける　結ける　結ける　結ける　結ける

結ける　結ける　結ける　結ける　結ける　結ける　結ける

結ける　結ける　結ける　結ける　結ける　結ける　結ける

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

井川の水　[illegible]

[illegible]

[illegible]

七條院大納言　中納言実綱女

信実朝臣

[illegible]

信濃　元仲女　母伊勢守原定基女

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

月を待つ夜の中つ比

[illegible]

西行法師

[illegible]

[illegible]

[illegible]

時雨降る

十月

時雨乃降ぬるかと山城の常盤の杜の木の下葉

社頭

冬をあさみ紅葉の色の

法華経

人麻呂

天上天下唯我独尊

人麻呂

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

源春　中之

いくしま山園月を結ん

源

千の面書　千人

源

村雲の月